

見守り（安否確認）のチェックポイント

	現場状況	追加情報・聞き取り情報 (いつもと違う、今までは〇〇だったのに...)
訪問	応答がない	いつも外出時に使用する手押車がある
郵便ポスト	新聞が未回収・たまっている	これまで新聞等がたまることが無かった
電話（固定）	電話を取らない	必ず折返しの電話があった
電話（携帯）	電話を取らない	室内から呼出音が聞こえる
窓・カーテン・雨戸	開いたまま・閉まったまま	毎日開閉していた・数日前から同じ状態
洗濯物	干されたまま	毎日取込んでいた
照明（日中）	点いている	数日前から点いたまま
照明（夜間）	点いていない	数日前から点かない
エアコン室外機	稼働している	数日間、昼夜問わず稼働している
テレビ	音が聞こえる	昼夜問わず音が聞こえる
配食サービス	玄関前に放置されている	前日に配達されたものが残っている
電気メーター	動いている	消費量を示す回転盤の回転が速い
ガスメーター	動いている	長時間、動いている
水道メーター	動いている	長時間、動いている

上記のチェックポイントは目安なので、判断には総合的な視点が必要です。日ごろの見守り活動の中から気づいたこと・感じたことが最も重要なチェックポイントとなります。重要なのは、追加情報・聞き取り情報です。例えば、「訪問しても応答がない」という状況だけの場合より「いつも使用しているはずの手押車が玄関に置いてあるのに」という追加情報がある場合のほうが、より危険度が高いと判断できます。

「毎日とられていた新聞や郵便物がたまっている」「今日に限って、洗濯物が取り込まれていない」など、『いつもと違う気になるサインにピンときたとき』には、「くるめ見守りほっとライン」にご連絡ください。



**毎日
24時間
受付**

くるめ見守りほっとライン

くるめ・みまもり・サン・キュー

0942-30-9 3 3 9

※明らかな異常・異変が疑われる場合は、**消防署（119番）**や**警察署（110番）**へ緊急連絡を！



セーフコミュニティ久留米

くるめ見守り通信

第3号

平成29年3月発行 久留米市健康福祉部地域福祉課
電話：0942-30-9174 FAX：0942-30-9715



久留米市
イメージキャラクター
くるっば

この通信は「くるめ見守りネットワーク」に協力していただいている皆さんに、見守り活動や「くるめ見守りほっとライン」への通報の状況などをお知らせするものです。

広がる見守りの輪

「くるめ見守りほっとライン」には、平成25年12月25日の開設以来、平成29年1月末時点で120件の通報が寄せられました。うち安否確認の通報が82件、その他の問い合わせなどが38件でした。通報のうち命を救うことができたのは7件でした。通報していただいた方の内訳は右図のとおりです。



「くるめ見守りネットワーク」の協力事業者として、協定を結んでいただいた事業者は、平成29年1月末時点で、104事業者になりました。協力事業者、民生委員、近隣住民の皆さんの他、協定を結んでいない事業者からも通報が寄せられるなど、着実に見守りの輪は広がっています。

「災害時の安否確認に向けて」 ～災害時要援護者名簿について～

災害時要援護者名簿とは、災害時要援護者（高齢者のみの世帯の方、要介護3以上の方、重度な障害をお持ちの方などの在宅の方のうち、自力またはご家族の協力による避難が困難な方）に、あらかじめ登録していただいた情報を市と地域が共有し、災害時の避難情報伝達や安否確認などの支援に活用するための名簿です。

お近くに心配な方がいらっしゃったら、名簿登録を勧めたいと思います。名簿への登録申込みは、随時、地域福祉課(0942-30-9174)で受け付けています。

さまざまな通報が寄せられています

今後の見守り活動や通報の際の参考にさせていただけるように、これまで「くるめ見守りほっとライン」に寄せられた通報の内容やその後の対応などを紹介します。



協力事業者の方から

<通報の内容>

配達した昨日の弁当がそのまま残っている。いつもなら、弁当がいらなくなるときは連絡される方なので、心配だ。

<対応の結果>

協力事業者、民生委員、警察、市で連携し、現場を確認するなどして対応しました。関係機関の情報収集の結果、親族の連絡先が分かりました。そして、親族の了解を得て、開錠することになり、警察が入室したところ、室内で倒れている対象者が発見されました。すぐに救命処置が行われ、救急搬送されました。

親族の方から

<通報の内容>

熊本地震のあとから、連絡が取れなくなっている。地震で、何かあったのではないだろうか、心配している。

<対応の結果>

市から、民生委員に最近の状況を確認しました。訪問してもらい、対象者の無事も確認でき、結果を通報者に伝えました。

民生委員の方から

<通報の内容>

最近、郵便物が溜まっており、姿を見かけなくなった。訪問しても応答がなく、もともと足が不自由な方なので、心配だ。

<対応の結果>

民生委員と市が連携して、現場を確認しました。現場の状況から、不在の可能性が高いと判断し、メモを投函して、様子を見ることにしました。

その後、民生委員から、近隣住民への聞き込みなどのご協力をいただいた結果、しばらく入院することになっていたことが分かりました。

後日、メモを見た対象者から、地域福祉課に連絡があり、日ごろの地域交流の大切さについて、改めてお話することができました。

研修会を実施しました 講師：吉田 太一 氏

平成29年2月10日、有限会社キーパーズ 代表取締役の吉田太一氏を講師に迎え、協力事業者や地域で見守り活動をされている皆さんを対象とした研修会を行いました。

研修では、吉田氏が遺品整理人として、これまでに見聞きしてきた孤立化の問題、それを引き起こしてしまう社会の問題について、体験談を交えながら、講演いただきました。

現在の社会情勢を踏まえ、まず、自分自身が孤立しないために、やっておくべきことは何か。そして、孤立してしまう方の心情を理解した上で、孤立させないための支援や工夫について、教えていただきました。



講師：有限会社キーパーズ
代表取締役 吉田太一氏



(研修会の様子) 当日は、約90名の方にご参加いただきました。

また、孤立防止に有効なのは、キーパーズ作成のDVD「孤立死」を見るなどして、自分自身で考え、行動につなげていくことだとお話もありました。

受講後のアンケートでは、90%以上の方が、「興味深い内容であった」、「今後の見守り活動に役立つ内容であった」とご回答いただきました。「人間関係、家族のつながりの大切さが改めて認識できた」、「まずは、自分の生活を見直すことから始めていきたい」などの意見も寄せられました。

出前講座「地域で孤立を防ごう」を実施しています

市では、出前講座「地域で孤立を防ごう」を実施しています。5人以上のグループを対象に、市職員が講師を務めます。

また、出前講座では、キーパーズ作成のDVD「孤立死」を視聴します。

「孤立しないためにできること」、「孤立させないためにできること」を地域の皆さんで話し合い、考えてみませんか。

- | | |
|-----------|---|
| 内容 | ●くるめ見守りネットワークの説明
●DVD「孤立死」の視聴
●地域で孤立を防ぐために、私たちにできることを話し合う |
| 対象 | ●校区コミュニティ組織、自治会、民生委員、ふれあいの会、老人クラブ、サロンスタッフや参加者、その他のグループ など |

